

# 徳島県立小松島西高等学校 TOKUSHIMA雪花菜工房×藻藍部

高校生ボランティア・アワード2024

私たち藍の子がアイゴ(藍子)で海を豊かにするプロジェクト

## ～ I laugh 青藍 ～

### 活動概要

地元漁師からの聞き取り調査を踏まえ、海藻を食べるアイゴ(草食魚)の増加が引き起こす、磯焼け(藻場の喪失)の問題に対処するため、地元の漁協や一般社団法人藻藍部の方々とともに環境保全活動に取り組んでいます。

具体的には、環境再生活動である天然資源の投入にボランティアとして一緒に活動したり、海洋DX・海洋GXを通して海中のモニタリング調査や分析などについても学ばせていただいています。また、食害魚とされるアイゴを撲滅するのではなく、貴重な食資源として活用できるような商品開発もしています。アイゴをフィッシュカツや竜田揚げなどに加工し、地域のイベントで販売するなど、地域貢献を通じた探求的な学びへと展開しています。

私たちは、海の豊かさを取り戻し、ブルーカーボン生態系の再生によって脱炭素社会への道を切り開くことを目指しています。

## 「日本の食文化や海を守りたい！」

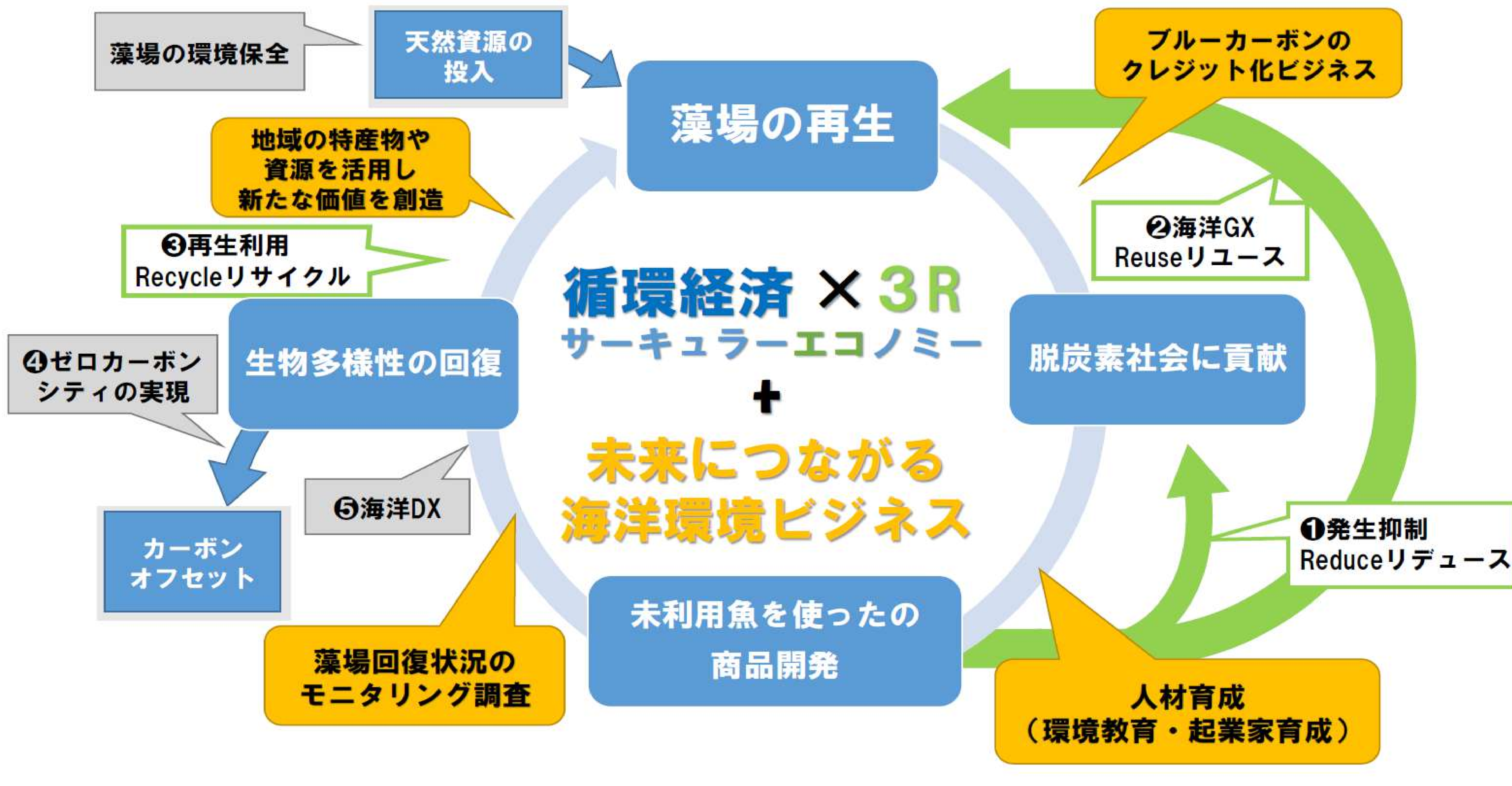


食料科が制作したアイデア商品



徳島のソウルフード  
アイゴのフィッシュカツ

### ●海洋DXと海洋GXが目指す循環型社会のビジネスモデル



海洋調査や漁業組合の調査



藻場再生のための資料開発



肥料を海へ投下



アイゴを使った商品開発



ボランティアの広報活動

### 美波町における藻場の現状

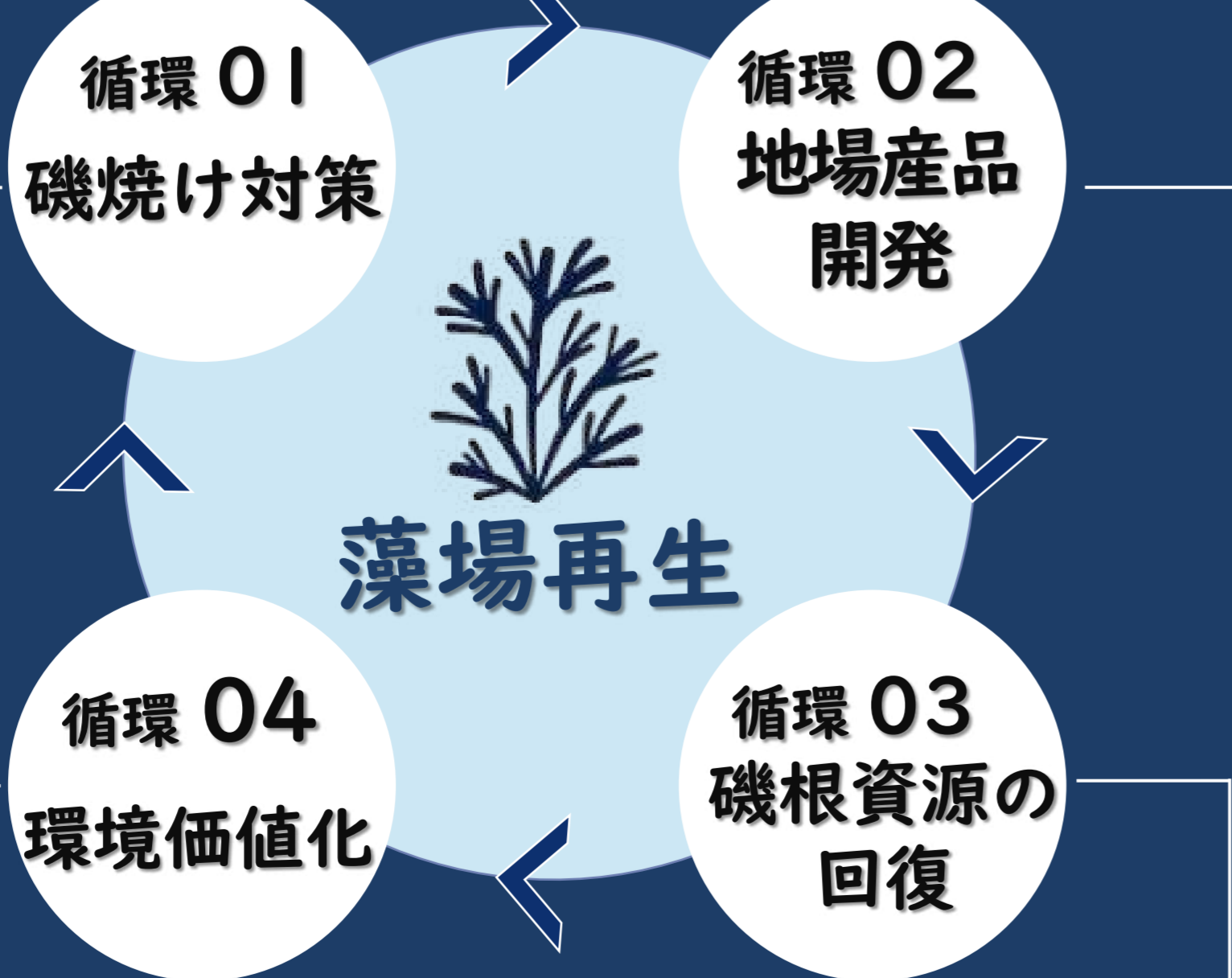
高度成長期の開発や、地球温暖化などを背景として、アイゴ等の植食性動物の過剰な食害(食圧)により、全国の藻場は過去に比べて大きく減少しています。美波町漁協の海域においてもこの20年~30年で藻場が急速に衰退し、その主要因はアイゴやブダイ等の草食魚による食圧によるものと調査により明らかになりました。

### SDGsに貢献する食育活動

藻藍部と漁協と協力し、「海のジビエ」として、自らの手で漁獲・加工したアイゴを取り扱ったフィッシュカツや甘酢あんかけなどの商品開発をしています。また、地域と連携し、食育活動を通じたSDGsの取り組みも行っていきます。

### 活動団体プロフィール

徳島県立小松島西高等学校は、商業科・食料科・生活文化科・福祉科の4学科からなる専門高校です。学校は海の近くに位置し、昔からの漁港や水産加工品の販売店もあります。本校では、昨年度より磯焼けの原因である未利用魚を活用した商品開発に取り組んでおり、食品を通して海洋環境教育を実施してきました。また、食品加工による温室効果ガスの排出にも着目し、カーボンニュートラルへの取組についても研究をすることとしました。磯焼けを減らすための取組として、ブルーカーボンプロジェクトを商業科の生徒が担い、ビジネスとして発展させるために、一般社団法人藻藍部と協力することになりました。食料科の生徒のアイデアをもとに、地場水産関係者やサテライトオフィス企業と連携しながら、食害魚・未利用魚を加工して販売しています。廃棄物となっていた食材の再利用を通して、磯根資源・人材・環境価値・文化を育む体制の構築を目指しています。磯焼け問題は徳島県南だけでなく、西日本を中心に全国の藻場の大きな課題となっています。小松島西高校生が藻藍部と協力し、全国の磯焼けに苦しむ地域を救えるよう、ボランティア活動も続けていきます。活動の場である美波町は、ウミガメの町で知られる徳島県の県南に位置する地域であり、町のスローガンは過疎地域であることを逆手にとって「『にぎやかそ』賑やかな過疎の町 美波町」として、官民一体となって地域活性化に取り組んでいます。藻場はウミガメやその他の海の生物の大切な餌場であると同時に、漁師の方々にとっては漁場でもあります。藻場の減少によって、ウミガメは産卵できず、漁業者は魚が獲れないという問題に直面しているため、美波町では藻場の再生に力を入れています。これまでに海藻に必要な肥料づくりを地元小学生とともに実施し、肥料を藻場に投げ込み海藻を増やす活動も行ってきました。高校生としては、こうした取組を全国に情報発信するとともに、磯焼けの原因でもある食害魚のアイゴを使った商品開発を続けていきます。そして将来は、地元企業の旭食品様協力のもと、レトルト食品・缶詰・冷凍食品などを開発して全国各地に届けたいと考えています。ブルーカーボンプロジェクトの賛同者を一人でも多く増やすこと、そして海の現状を知ってもらうことで日本の食文化を守ることが私たちの目標です。



### ブルーカーボンの創出

藻場などの海洋生態系に取り込まれた炭素「ブルーカーボン」。二酸化炭素を吸収・固定することで、地球温暖化対策に有効とされています。この減りゆく藻場を再生することにより、温室効果ガスの吸収源を増やし、地球環境全体に影響をもたらすことも大きな狙いです。

### 藻場増殖資源の開発

徳島県内で発生する廃棄物(しいたけ廃菌床やウニ殻)を用いて、窒素・リン・鉄等の海藻の生育に必要な栄養供給を行う予定です。廃棄物を資源循環させ、「有価物」として再生し、藻場の増殖を目指します。